

IV 普及啓発・情報提供



1 「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」(国の資料)

(1) 共生社会コンファレンスの趣旨

共に学び、生きる共生社会コンファレンス

趣旨

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び生きる共生社会の実現に向けて、**障害者の生涯学習の機会を全国的に整備・充実**することが急務である。

そこで、令和元年度より**障害者の生涯学習活動の関係者が集う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を全国ブロック別に開催**し、障害者本人による学びの成果発表等や、学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議等を行う。障害の社会モデルに基づく**障害理解の促進**や、支援者同士の学び合いによる**学びの場の担い手の育成**、**障害者の学びの場の充実**を目指す。

参加者

○150~300名程度を想定 ○障害者本人、学びの支援者・関係者、障害者の学びに関心のある人など

⇒都道府県・市町村職員(障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等)、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障害者の学習支援実践者(NPO等)、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等。

コンファレンス実施内容

例1 障害者の学びのニーズや学びの成果としての社会参加機会の創出に向けて、障害者本人による学びの成果発表や思いの表現等の機会を設定

例2 障害者の学びの場の担い手を育成するための優れた実践事例の発表や、ワークショップ等の実施

例3 各テーマ(学びの場の類型、障害種、実施主体等)ごとの分科会の開催、関係者のネットワーク構築に資する交流機会を設定

誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会の実現



コンファレンス
(Conference)

会費、協賛金
関係者間で共有する問題
について協議すること

【概要映像】令和元年度
関東甲信越ブロックの様子

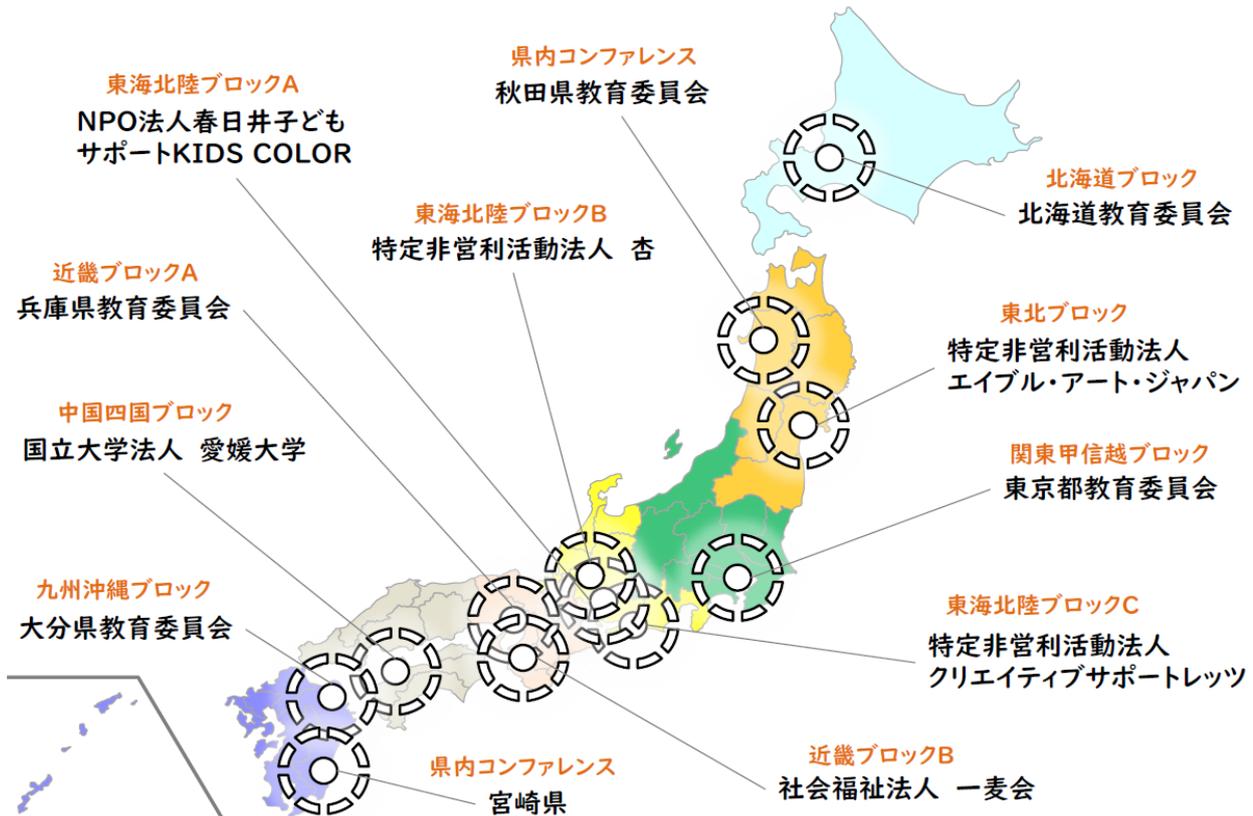


【記録映像】令和2年度
中国・四国ブロックの様子



(2) 令和4年度コンファレンス実施団体

令和4年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」実施団体地域分布



(3) 開催報告

「ひなたのつどい(共生社会コンファレンス)」

開催報告

I 概要

1 主催

宮崎県教育委員会、文部科学省

2 テーマ

つながる！～共に学び、共に生きる社会を目指して～

3 日時

令和5年1月21日(土) 午後1時から午後4時40分まで

4 配信会場

宮崎県教育研修センター

① 配信方法

Zoom ミーティング

② 情報保障

手話通訳の画面表示、Zoom アプリを用いた字幕表示

③ プログラム

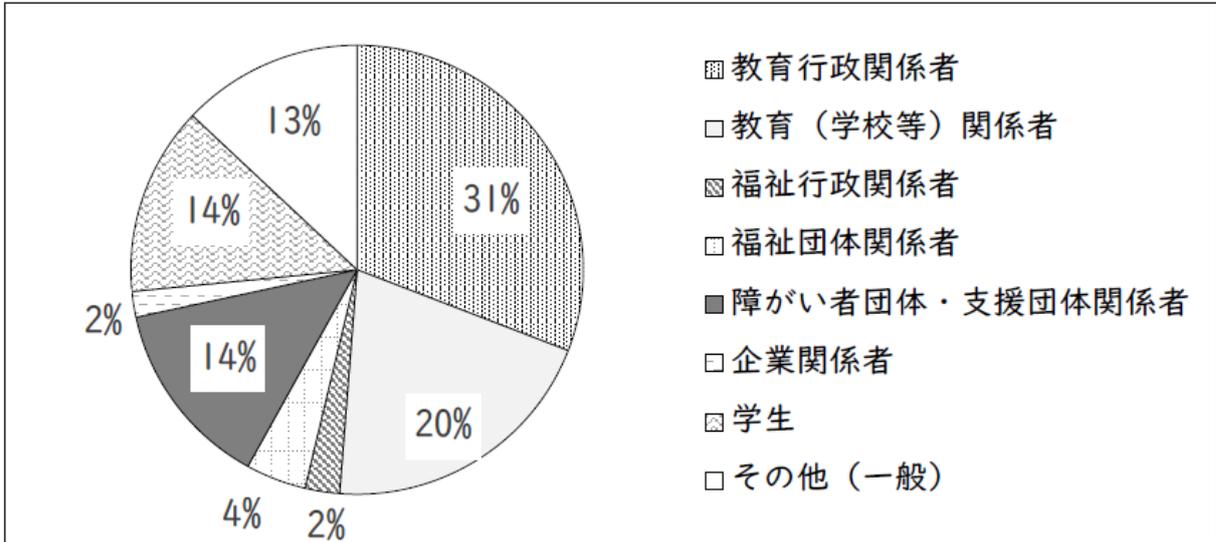
| | | |
|-------------|------------------|---|
| 12:55 | 諸連絡 | 諸連絡(視聴方法、情報保障、資料ダウンロード等) |
| 13:00-13:05 | オープニング | スペシャルビデオメッセージ(金澤 翔子 氏) |
| 13:05-13:25 | 施策説明 | 文部科学省の取組(障害者学習支援推進室) 宮崎県の取組(教育庁生涯学習課) |
| 13:30-13:50 | 実践発表Ⅰ 質疑応答 | 当事者×学生 YAH!DOみやざき 森 愛実 氏(宮崎市) 宮崎福祉医療カレッジ 田淵 広大 氏(宮崎市) |
| 13:55-14:15 | 実践発表Ⅱ 質疑応答 | 民間団体×行政 霧島おむすび自然学校 壹岐 博彦 氏(小林市) ポン太クラブ 外山 明美 氏(都城市) |
| 14:20-14:40 | 実践発表Ⅲ 質疑応答 | 福祉×教育 日向市地域福祉コーディネーター 成合 進也 氏(日向市) |
| 14:40-14:50 | 県内団体 活動紹介 | 宮崎県ボッチャ協会～UPtoMEみやざき～teとteの会～ 宮崎伴走者協会～南九州大学野村研究室～ |
| 14:55-15:05 | 取組推進校発表Ⅰ | 児湯るびなす支援学校(山本 健介 教諭) |
| 15:05-15:15 | 取組推進校発表Ⅱ | 延岡しろやま支援学校高千穂校(藤元 龍哉 教頭) |
| 15:15-15:20 | 質疑応答 | 児湯るびなす支援学校・延岡しろやま支援学校高千穂校 |
| 15:25-16:25 | インタビュー・ ダイアログ | 「つながる!共に学び、共に生きる社会を目指して」 コーディネーター 柳田 哲志 氏(UMKテレビ宮崎) 登壇者 真北 聖子 氏(UP to MEみやざき) 宮井 英次 氏(明星視覚支援学校 教諭) 松田 美咲 氏(宮崎大学 学生) |
| 16:30-16:40 | クロージング | 主催者挨拶(御礼)(宮崎県生涯学習課長 長尾 岳彦) 諸連絡 |

5 事後

- ① 参加者アンケートの実施・回収
- ② 県生涯学習課 HP「みやざき学び応援ネット」更新

II コンファレンスの実際

I 事前参加申込数

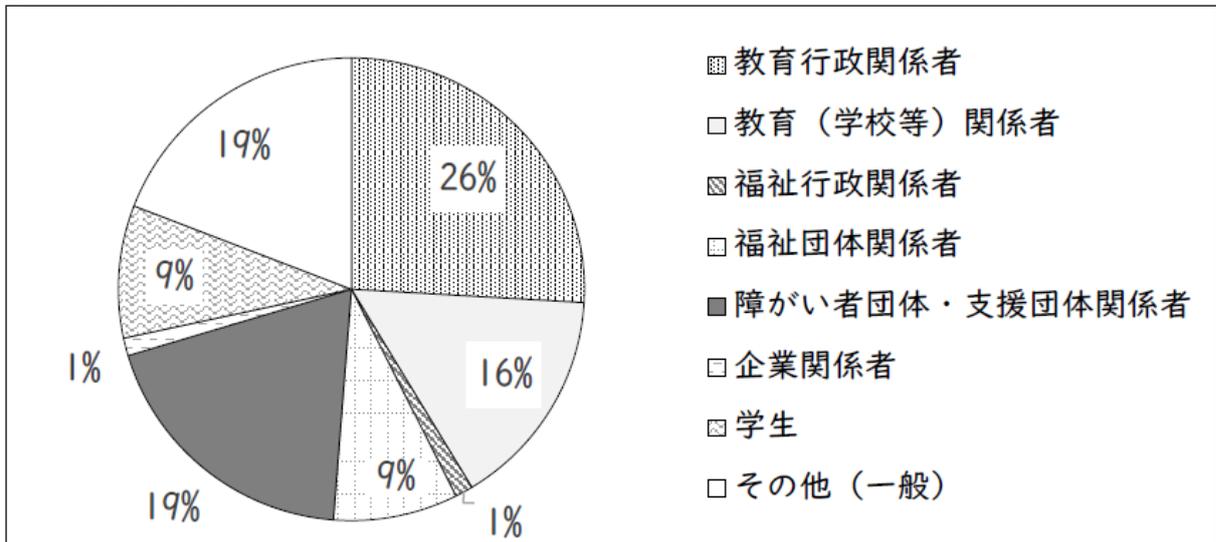


* 事前申込者数は162名、うち51%が教育行政関係者、教育（学校等）関係者

* 申込時に確認できた県外からの申込者数は18名（約11%）

うち4名が九州、14名が九州外から

2 当日の参加者数



* 当日参加者は162名、参加申込み時より福祉団体関係者、障がい者団体・支援関係者関係者の割合が増加した。

* サテライト会場として志和地公民館に16名、延岡市地域活動支援センターみなとに8名、南九州大学の野村研究室に8名の参加があった。

* 研修センターの会場での参加者数は、21名（登壇者3、ヘルパー1、手話通訳者3、特別支援学校校長1、事務局13）

3 実践発表の概要

(1) 実践発表 I

| | |
|-----|---|
| 団体名 | バリアフリーサークル・やどかり |
| 報告題 | 当事者×学生 「バリアフリーサークル・やどかり」の取組を通して |
| 報告者 | YAH!DOみやざき 森 愛実 氏 宮崎福祉医療カレッジ 田淵 広大 氏 |
| 概要 | YAH!DOみやざきのスタッフと宮崎福祉医療カレッジの学生が自主グループとして立ち上げた「バリアフリーサークル・やどかり」。その立ち上げから実際の活動までの経緯やそれぞれの思いについて報告した。 |

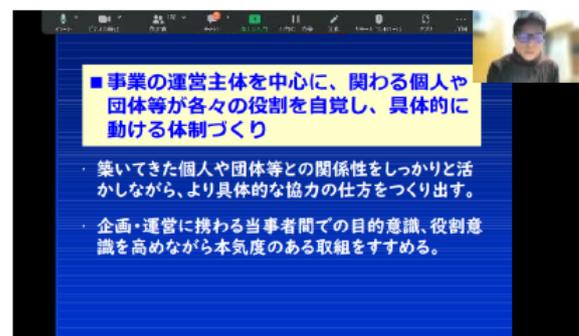
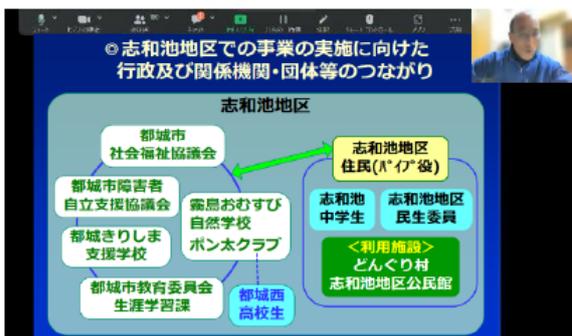
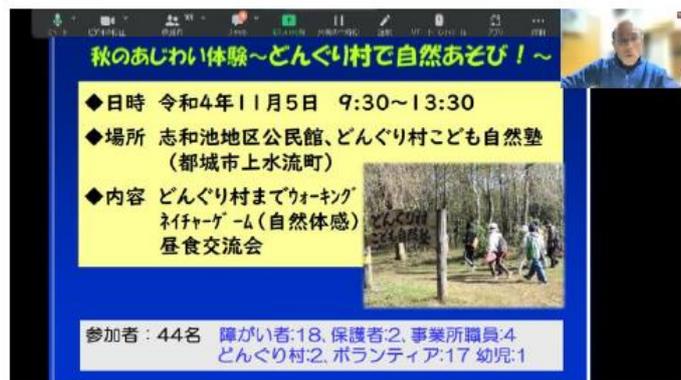


【参加者から】

- * 当事者と学生で、自分達のやりたいことを基本に企画・実施しているのがよいと感じた。
- * 当事者の方の積極的な取組がすばらしいと思った。関わることから理解が生まれるということを実感した。是非、継続して欲しい。
- * 二人のフリートークがとてもよかった。「会ってみればフツーでした」が表しているように、実際に会い、そして経験を共にし、楽しむ。特に、与えられて何かをするのではなく、何をやるか、自分たち自身が主体的に考えて、実践できることが試行錯誤も含めて“共に楽しむ”につながるのだろうなど思った。
- * 障がいの有る無しに関わらず、同じ目的・目標に向かって共に楽しむことが敷居を低くするポイントであるという言葉が印象に残った。二人の掛け合いがとても楽しそうで、見ていて、ほっこりした。
- * YAH!DOの皆さんと医療カレッジの皆さんの交流が微笑ましく感じた。「やらされ感」なく、自分たちで楽しむことを大事にした時に道が開けたのだと思った。私たち一人ひとりがこの感覚をもつところから、「共生社会が始まる」のだと改めて思った。

(2) 実践発表Ⅱ

| | |
|-----|--|
| 団体名 | 霧島おむすび自然学校・ポン太クラブ |
| 報告題 | 民間団体×行政 障がいのある人たちの自然体験と地域交流 ～協働による生涯学習のすすめ方～ |
| 報告者 | 霧島おむすび自然学校 壹岐 博彦 氏 ポン太クラブ 外山 明美 氏 |
| 概要 | 都城市で実施した「フットパス」の取組について、実施に向けてどのように行政と関係機関・団体がつながったのか、地域の民生委員や高校生ボランティアを含め、今後、持続的に実施していく上での成果や課題について報告した。 |



【参加者から】

- * 「障がい者は地域とのつながりが少ない」と聞き、自分も障がいのある人に話をかけたことがないと改めて実感した。障がいのある人に限らず、地域とのつながりを作り、地域の方々が楽しく住んでもらえるように行政活動を行なっていく重要性を考えさせられた。
- * 障がいの有無に関わらず、共に自然とふれあう遊びやウォーキングなどの交流を地域の人たちと楽しむことで、さらに自身の住む街に関心が深まり、今後地域の中で暮らすことが好きになるのではないか。ふれあうことは大切。
- * 核となる人材とボランティアを確保し、地域の様々な立場の人たちが共に活動を楽しむ。誰もが一人じゃないと感じられること、無理なく楽しむこと。障がいの有無を超えて、コロナ禍、地域において人とのつながりが希薄になってしまった今、こういった活動の場は、全ての人にとって必要であると感じた。
- * 目的意識、役割意識がこの取組を持続可能なものにするポイントだと感じた。
- * 大事なものは、関係者同士がしっかりとつながって地域とのつながりを通した障がい者の学習の場を確保し、学びの支援を続けていくことだと思った。

(3) 実践発表Ⅲ

| | |
|-----|---|
| 団体名 | 日向市地域福祉コーディネーター連絡会 |
| 報告題 | 福祉×教育 ふくし食堂 災害対応チャレンジバージョン!! |
| 報告者 | 地域福祉コーディネーター 成合 進也 氏 |
| 概要 | 障がいの特性に応じて誰もが学べる場として実践した「ふくし食堂」の取組。実践を通して、生涯学習実践ネットワークの充実・強化の図り方や、障がい特性、地域特性を踏まえた「生涯学習プログラム」の在り方について報告した。 |



「ふくし食堂」災害対応チャレンジバージョン!

目的(何のために)

- 目的1 「ふくし食堂」の実践を通して、日向市における障がいがあっても学べる障がい特性に応じた「学びの場」について考える。
- 目的2 障がいの有無にかかわらず、人と人が「出会い」と「対話」をとおして、相互に学び合い、理解を深め、よりよい関係性(知り合いの関係性)を築く。
- 目的3 地域福祉(生涯学習)実践ネットワークの充実・強化を図る。
- 目的4 実践効果(結果)の検証(実践課題の抽出・整理・可視化)を行い、障がい特性、地域特性を踏まえた「生涯学習プログラム」検討の材料とする。



企画目的説明・障がいのある人や家族の思いを知る(障がい理解)



一人の一步を、これからの一步へ!



【参加者から】

- * 防災の面を入口にして始める取組は共感もてた。当市でも検討していきたい。
- * 誰もが安心でき、かつ継続できるインクルーシブ環境について改めて考え、何から実践するかをイメージするきっかけとなった。
- * 「学ぶ前にお互いを知る事。やってみないとわからない。」その通りだと思った。オンライン配信のアイデアは、とても参考になった。遠隔地に住む人や、参加してみたいと思うけれど、なかなか一歩が踏み出せない人などにとって、参加するきっかけになるのではないか。
- * 支援者同士が理解し合うという点に眼目を置いている。計画段階から当事者の参加があれば、もっと素敵だと思う。
- * 特別支援学校在籍中から自分たちがやりたいことを地域の人たちと共にやる。成合さんからいただいたテーマ、今後実践していく上でのヒントとなった。
- * 野外活動・災害対応の体験等、障がいのある方にとって貴重な体験だと思った。様々な機関の協力のもと企画・実行されており、素晴らしい取組だと思った。
- * 身近な問題でもあり取り組みやすい活動でよかった。場所の選択、関係者とのつながり方、活かし方(役割)等が改めて大事だと思わされた。また、様々な実践を行う上では、背中を押す人たちの存在の大きさがあることも実感した。

4 県内団体活動紹介の概要

| | | |
|----------|--------------|---------------------------|
| 紹介 団体 | ○ 宮崎県ポッチャ協会 | ○ Up to ME バリアフリーサークルみやざき |
| | ○ teとteの会 | ○ 宮崎伴走者協会 |
| | ○ 南九州大学野村研究室 | |



【参加者から】

- * 県内において様々な取組が行われていることを知ることができた。このような団体紹介を県内の人々が知る機会があると良い。
- * 様々な団体が活動されていることを知った。情報格差が生まれないために情報の窓口が誰でもわかるようになってきていることはICT時代の必須課題であると感じた。
- * いろいろな団体が、それぞれ魅力的な活動をしていることが伝わった。このような紹介が、もっと一般の人たちにも目に触れる形になるとよい。
- * 素晴らしい生涯学習になり得る取組、活動の数々。これからもたくさんの学習機会の選択肢が増えるよう期待する。
- * こんなに活動、活躍されている団体があるのだと知り、宮崎凄い！と思った。他にもたくさんの団体があるのだろうが、情報が欲しい。

5 取組推進校発表の概要

(1) 取組推進校発表 I

| | |
|-----|--|
| 学校名 | 宮崎県立児湯るびなす支援学校 |
| 発表題 | 地域のスポーツクラブとつながる取組 |
| 発表者 | 教諭 山本 健介 氏 |
| 概要 | 宮崎県新富町を拠点とする女子サッカーチームの「ヴィアマテラス宮崎」の選手と児湯るびなす支援学校の生徒との交流学習を通して、学校卒業後の過ごし方や余暇活動として様々なスポーツへの興味・関心を養う取組を発表した。 |

地域で活躍しているサッカーチーム「ヴィアマテラス宮崎」との交流

交流を通して、
①応援する楽しさ（共働）②スポーツや運動をする楽しさ を体験し、
③卒業後の過ごし方や余暇活動として様々なスポーツへの興味・関心を養う



選手からのメッセージ
「一緒に新富町を盛り上げよう！」

オリジナル応援キャラクターを制作しました
児湯るびなす支援学校

応援キャラクター制作のようす



選手も制作に協力していただきました
選手からのメッセージ

②運動する楽しさ
～体育館でサッカー体験～



かなり盛り上がりました。
生徒の自然した姿を見ることができました

児湯るびなす支援学校



【参加者から】

- * 地域に活躍しているサッカーの団体があることは、地域の宝だと思う。そんな団体とつながり、サッカーが好きになる人、運動が好きになる人、将来の目標にしたい人ができるなど、生涯学習活動に本当によい取組だと思う。学校卒業後につなげて活動をして欲しい。
- * サッカーをする、見る、支える、活動に参加するなど、いろいろなスポーツへのかかわり方があったと分かった。
- * 聞いていてわくわくする実践だった。発想や工夫が素晴らしい。様々な障壁を崩すのは、このような実践からなのかもしれない。
- * 学校側も生涯学習につながる選択肢を生徒に見せていくという視点は、とても大切だと思った。
- * 在学中から生涯学習につながる経験が出来ること、そのような場とつながれること、とてもよい取組だと思った。
- * お互いにとっての学びになる実践だと思った。一方はサッカーを通じて障がい者理解につながり、生徒たちには活動への意欲（学習への動機づけも含め）につながり、双方向の学びがあったと感じた。プロサッカーチームとの交流活動は、何よりも刺激的だと思う。

(2) 取組推進校発表Ⅱ

| | |
|-----|--|
| 学校名 | 宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校 |
| 発表題 | 地域の伝統芸能とつながる取組 |
| 発表者 | 教頭 藤元 龍哉 氏 |
| 概要 | 高千穂高校の敷地内にある延岡しろやま支援学校高千穂校。年間を通して継続的に交流及び共同学習を実施している両校の生徒が、今回、地域の伝統芸能である「神楽」を通して、学校卒業後の生涯学習につながる取組を発表した。 |



【参加者から】

- * 神楽がとても印象的だった。同じ目的に向かって練習し、達成したときの喜びを一緒に感じることは、共生社会の基盤となる大切なことだと思う。今後の活動が楽しみにしている。
- * 地域の伝統である神楽を通して同じ高校生同士が交流するということは、これから成長していく上で大変意義のある活動だと感じた。
- * 高校生が、障がいの有無ではなく、一人の人として、互いに尊重できていることが分かる言葉があって、素敵なことだと思った。
- * 高校生の1%のアンケート結果が印象的だった。確かに、意義があるなしで判断するのではなく、自分がしたいからというその思いがとても素敵だと感じた。そのような考えの子供が多く育っていくと、共生社会がさらに広がると思った。
- * 地域性を最大限に生かした素晴らしい取組だった。高千穂高校の生徒アンケート、1%の回答の紹介に驚きと嬉しさが溢れた。確実に新しい価値観が育っていると感じた。
- * 地域で暮らす障がい児者にとって理想的な学校であり、共に育っていく環境は素晴らしい。支える地域の皆様の熱い想いに感動した。
- * 地域に根ざした実践は障がい者理解、啓発につながる大きな取組だと思う。実態の分析・評価の上でねらいを定めて実践することの大切さと、神楽の地域とのつながりを生む素晴らしい題材という点に感心した。地域の保存会の人たちの障がい者を見る目も変わったのではないか。今後は楽しみだ。

6 インタビュー・ダイアログの概要

| | |
|----------|---|
| テーマ | 「つながる！～共に学び、共に生きる社会を目指して～」 |
| コーディネーター | 柳田 哲志 氏 (UMKテレビ宮崎) |
| 登壇者 | 真北 聖子 氏 (UP to ME バリアフリーサークルみやざき) 宮井 英次 氏 (宮崎県立明星視覚支援学校) 松田 美咲 氏 (宮崎大学) |



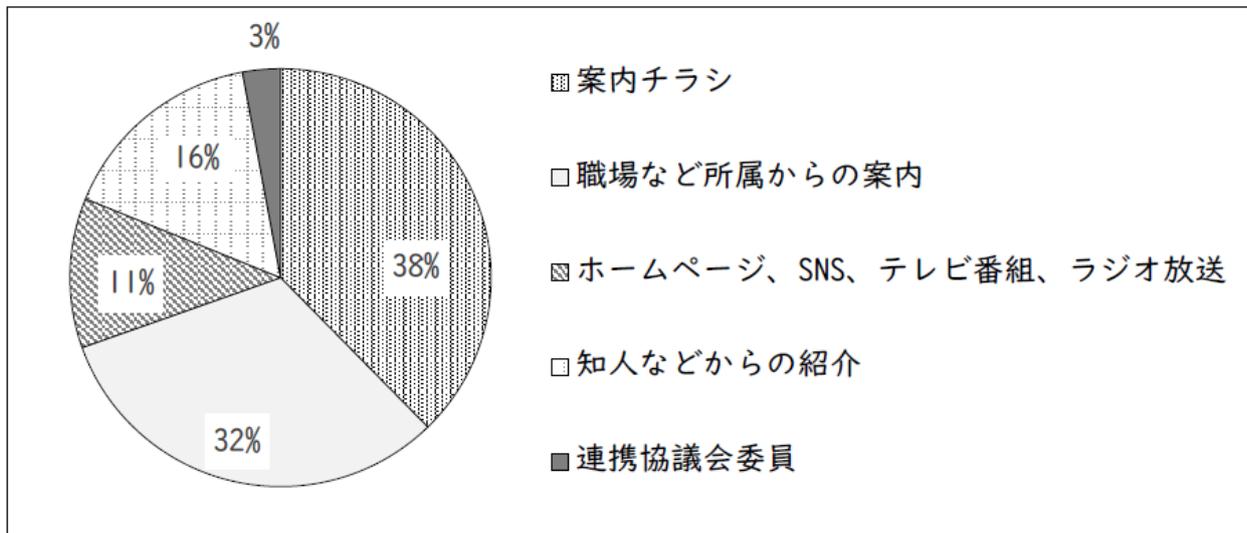
【参加者から】

- * 当事者や支援者の方々の様々な御意見を聞くことができ、大変勉強になった。共生社会を推進するためには、子供の頃から理解させることが重要であると再認識した。
- * インタビューでの感想は皆様のそれぞれの立場は違っても思いは同じ。誰もが生きやすい社会にしていかなければならないと感じた。これからの担う学生さんの思い有難く感じた。
- * 中途障がいならではの苦悩、葛藤、障がいの受容の過程。それらの経験に裏打ちされた思い、活動が心に響いた。当事者が発信することの大切さを改めて痛感した。お互いが知らないことが先入観になっている。相手が何を求めているかヒヤリングが大切。障がいの有無を問わず、人と人とのかかわりにおいて、とても大切なことに気づかせてもらった。
- * 「障がい者や障がい者ではないということに気にしていない」という言葉が心に残った。常にそういった意識をもち続けることは難しいと感じているが、少しずつでも自分の中の壁を壊していくことが共生社会の実現につながるのではと考えた。
- * 障がいを抱えながら葛藤し、それでも前向きに明るく生きていくための、情報収集と発信、活動に取り組みされており感銘を受けた。当事者の方の生の声は本当に貴重で、自分事として捉えることの大切さを実感した。学生さん達とボランティアを通じてつながりたい。
- * 健常者と障がい者がお互いを知らないことが問題であるという言葉が心に残った。障がいの有無に関わらず皆が楽しく過ごしていける共生社会が当たり前の世の中になって欲しい。
- * 当事者の方々がどのように感じているのか、生の声を聞いて良かった。共生社会のためには、真北さんが話していた「お互いを知る」という機会が、様々な世代で、かつ様々な場所で広がっていくことがまず必要だと思う。また、柳田さんの「共に生きる社会が当たり前になる」という言葉が、宮崎で具現化されるよう自分にできることを行っていきたい。

7 参加者アンケート

(1) 回答数 67 (入力フォームによる回答)

(2) ひなたのつどいをどのように知ったか

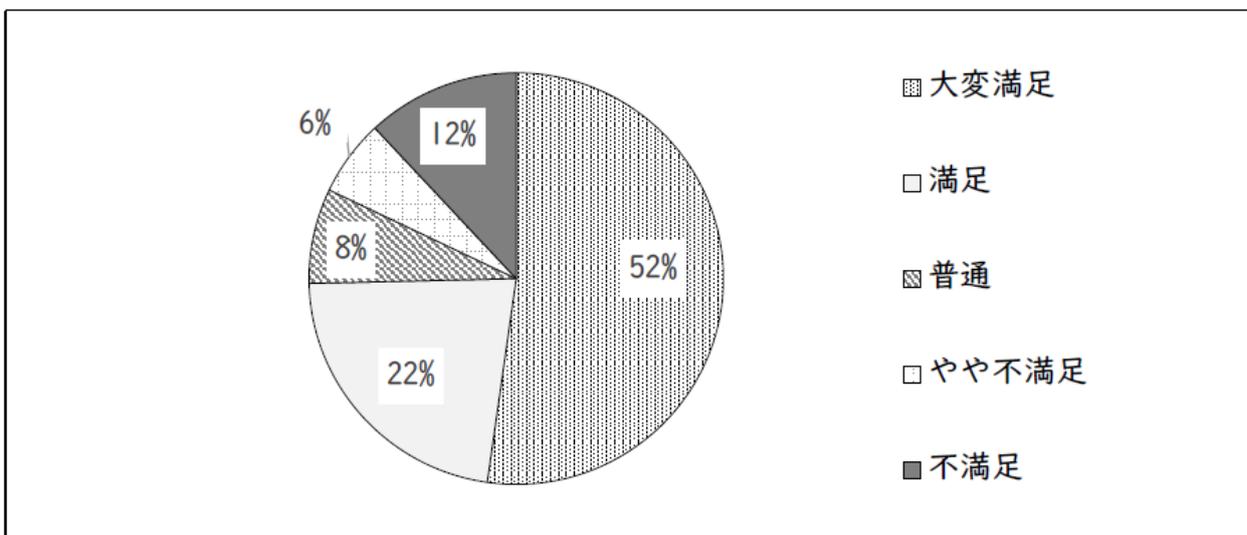


* 「案内チラシ」による参加が昨年度の14%から38%に増加した。親しみやすいチラシのデザインや、県民の意識の向上等が考えられる。

* 「ホームページ、SNS、テレビ番組、ラジオ放送」が昨年度の4%から11%に増加した。特別番組、啓発CM等のテレビ広報による効果大きいと考えられる。

* 当日の参加者で一般が19%、学生が9%と昨年度から増加したことから、昨年度課題としていた「『共生社会』から距離のある人」への広報について一定の成果があったと考える。

(3) コンファレンスの満足度



* 回答者の74%が「大変満足」「満足」と回答している。

* 「不満足」「やや不満足」の回答が18%あったが、その要因については分析していきたい。

(4) 本コンファレンス全体を通して

- * どれも素晴らしい取組や実践であった。今後もぜひ継続して欲しい。
- * 共生社会の実現は難しいものと考えていたが、それほど高い垣根などないと今回のひなたのつどいに参加して分かった。また機会があったら参加したい。
- * 共生社会をどう創造していくのか、柳田さんの言葉に「教育でしょう」とさりりながら重い言葉があった。障がいのある子どもを育てている親として、障がいのある子どもの教育にかかわるものとして学びの多い会となった。
- * 障がいの有無にかかわらず同じ空間を共有する（共に生きる）ことによって、お互いのことを知るきっかけにつながり、そしてより良い社会の実現につながるということを実感した。
- * 一般の方が障がいについて学ぶ機会、障がいのある方と一般の方が一緒に学ぶ機会、障がいのある方が学ぶ機会、いろいろな展開に期待する。
- * 今後は、ICTを活用した生涯学習の機会が障がい者や高齢者にとって重要な部分となると考えるため、スマホ講座など、ICTのスキルアップにつながるような取組等も取り上げて欲しい。

8 成果と課題

(1) 成果

- 今年度は、すべてのプログラムを「つながる」をテーマに発表を行うことで、参加者の感想にも多様な「つながる」を意識した意見が見られ、参加者に「ひなたのつどい」のコンセプトを明確に伝えることができた。
- 今回、新型コロナウイルス感染症の感染状況の観点からオンラインで実施したが、遠隔地からの参加や在宅を余儀なくされている方の参加もあり、よい開催方法であった。ただ、対面を望む声もあるが、誰もが参加できる点ではハイブリッドを含め、オンライン開催は今後も必要である。
- 昨年度の課題であった『『共生社会』から距離のある人』の参加について、テレビを使った広報や、「ひなたのつどい」へのタイトルの変更等によるものが、「学生」「一般」の参加者が昨年度の22%から28%へ増加した。一定の成果があったと考える。

(2) 課題

- 昨年度の反省から午後からの半日開催としたが、各団体の発表を十分な時間を確保することが難しかった。発表数を精選や分科会形式での実施など、開催方法について検討が必要である。
- 福祉分野の方を含め、幅広い分野からの参加を求める必要がある。コンソーシアム委員を中心に関係機関への広報を引き続き進めていく必要がある。



令和4年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス
主催 宮崎県教育委員会、文部科学省



日本の
ひなた
宮崎県

ひなたのつどい

つながる！

～共に学び、共に生きる社会を目指して～

令和5年 **1.21** 土
13:00～16:40
オンライン



オープニングメッセージ
金澤 翔子氏(書家)
(文部科学省 スペシャルサポート大使)

誰もが共に学び、共に生きる社会を宮崎県は目指します。
そのために、私たちは、何を考え、何を実行すべきでしょうか。
障がい者の生涯学習について、みんなで考える1日にしましょう。

参加費
無料

申込み方法 申込み期限 令和5年1月13日(金)

右のQRコードまたはURLから申込フォームにアクセスし、
必要事項を入力の上、送信してください。

URL: <https://shinsei.pref.miyazaki.lg.jp/kOK6mQoa>



QRコードは(株)デンソーウェブ
の登録商標です。

お問合せ

宮崎県教育庁生涯学習課
生涯学習推進担当
(TEL)0985-26-7244
(FAX)0985-26-7342

こちらにも情報を
掲載しています

みやざき学び応援ネット

(宮崎県生涯学習課
ウェブサイト)

<https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp>

実践研究 13:30～

当事者×学生

YAH!DOみやざきと宮崎福祉医療カレッジの学生が一緒になって作ったサークル「やどかり」の取組を紹介します。



民間団体×行政

ポン太クラブと霧島おむすび自然学校が都城市生涯学習課と協働して行った都城市での取組について紹介します。



福祉×教育

「まずは、やってみよう！」と実施した今年の「ふくし食堂」。いざという時のために、防災チャレンジバージョンで計画しました。



県内団体紹介 14:40～



宮崎県ポッチャ協会



UP to MEみやざき



teとteの会



宮崎伴走者協会



南九州大学野村研究室

取組推進校 14:55～

児湯るぴなす支援学校

地域で活躍しているサッカーチーム「ヴィアマテラス宮崎」の皆さんとの交流の様子を報告します。



延岡しろやま支援学校高千穂校

地域の伝統文化である「神楽」を地域の保存会の方と高校生と共に練習し、発表した取組を紹介します。



インタビュー・ダイアログ 15:25～



UMKアナウンサー
柳田 哲志 氏



UP to ME みやざき代表
真北 聖子 氏



明星視覚支援学校教諭
宮井 英次 氏



宮崎大学 学生
松田 美咲 氏

申込みについて

* 開催日に近づきましたら、参加申込時に登録されたメールアドレスに、当日に向けた連絡事項(ID、パスコード、接続方法等)をお知らせします。

- ・ 参加にあたっては、インターネットに接続できる環境が必要です。
- ・ 通信環境によって配信の状況が異なることがあります。また、利用する回線の契約プランに通信容量制限や速度制限がある場合は、通信の遅延や通信料の追加等が発生する場合がありますので、御注意ください。
- ・ 参加申込時にいただいた個人情報は、本コンファレンス以外の目的には使用いたしません。

2 ホームページへの情報掲載

県生涯学習課ホームページ「みやざき学び応援ネット」に本事業の情報を掲載するためのページを準備し、協議会の記録やコンファレンスの様子など随時、情報を掲載した。

【URL】 http://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/symbiotic_society_index.html

トップ>生涯学習・社会教育>共生社会の実現に向けた生涯学習の充実



🏠 [トップページ](#) > [生涯学習・社会教育](#) > 共生社会の実現に向けた生涯学習の充実

共生社会の実現に向けた生涯学習の充実

県教育委員会では、令和2年度より、文部科学省の委託を受け「共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業」に取り組んでいます。

学校卒業後の障がいのある人たちの生涯を通じた多様な学びの機会や家族・関係者を含めたつながりの場を創出・拡充し、持続可能なものとしていくために、推進協議会を組織し、調査研究、実践研究及び普及啓発に取り組んでいます。

文部科学省の事業概要

文部科学省では、「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を実施しており、令和4年度は以下の3つを内容としています。

- (1) 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究
- (2) 生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究
- (3) 障害者の学びに関する普及・啓発や人材育成に向けた取組

このうち、宮崎県では(1)「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究」に取り組んでいます。

- 👤 [文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」](#)
- 👤 [令和4年度受託団体](#)

また、県内各地で行われている様々な生涯学習に関する情報については、同ホームページ、トップページ下の「生涯学習データベース」の活用を検討している。

生涯学習データベース

講座・イベント情報

団体・グループ情報

講師・指導者情報

施設情報

←この部分

3 メディアを活用した本事業の広報

(1) テレビ

- ① UMK テレビ宮崎 特別番組「つながる ～共に学び共に生きる社会を目指して～」
障がい者の生涯学習の普及・啓発を目的に、県内の様々な障がい者の生涯学習に取り組む団体や個人に焦点を当て、特別番組を放送した。



放送日時：令和4年12月4日(日)午後4時55分～午後5時25分(30分番組)

② 啓発CM

障がいのある当事者と共に活動する学生の声を生かし、共生社会の実現には、「障がい者と健常者が、まず一緒に何かを体験し、互いへの理解を深めることが大切である」というメッセージを発する啓発CMを制作放送した。



放送期間：令和4年11月24日(木)から12月14日(水) 21日間、50本

③ 特別番組・ひなたのつどい（共生社会コンファレンス）告知

- UMK 「You & Live 『Smile』」 11月25日(金)放送
- UMK 「You & Live 『Smile』」 12月21日(水)放送
- UMK 「のびよ みやざきっ子」 12月25日(日)放送
- MRT 「みらい・みやざき まなび隊」 12月31日(土)放送
- UMK 「You & Live 『Smile』」 1月13日(金)放送



(2) ラジオ

令和5年1月12日(木)、宮崎市に所在地を構えるコミュニティ放送局である「宮崎サンシャインエフエム ホット音 RADIO」にて、「障がいのある方の生涯学習とは」をテーマにパーソナリティーとの対話の様子が放送された。また「ひなたのつどい（共生社会コンファレンス）」のことも紹介することができた。

(3) SNS

宮崎県の公式 SNS を利用し、下記のとおり LINE、Twitter、Facebook を使い「ひなたのつどい」の開催についての広報を行った。

| 〔宮崎県公式 LINE アカウント〕 「友だち」登録数 14,130 | 〔宮崎県公式 Twitter〕 フォロワー数 25,803 | 〔宮崎県公式 Facebook〕 フォロワー数 1.3 万人 |
|--|--|--|
| <p>〔宮崎県公式 LINE アカウント〕 「友だち」登録数 14,130</p> <p>2022年12月22日(木)</p> <p>「ひなたのつどい」のご案内／ 宮崎県は誰もが共に学び、共に生 きる社会を目指します。☀️ そのために、私たちは、何を考 え、何を実行すべきでしょうか。 障がい者の生涯学習について、み んなで考える1日にしましょう👏 令和5年1月21日(土曜日)、 オンラインにて実施します。 多くの皆様の参加をお待ちして おります🙏 詳細は画像をタップ👉</p> <p>申込みはこちらから↓ https://shinsei.pref.miyazaki.lg.jp/kOK6mQoa</p> <p>受付終了のお知らせ 受付終了のお知らせ誠に申し訳ありませんが、「ひなたのつどい」(共生社...</p> <p>令和4年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス 主催 宮崎県教育委員会、文部科学省</p> <p>ひなたのつどい</p> <p>つながる！ ～共に学び、共に生きる社会を目指して～</p> <p>令和5年1.21 土 13:00～16:40 オンライン</p> <p>金澤 翔子氏(作家) [宮崎県庁 2階201号室(2階)]</p> <p>誰もが共に学び、共に生きる社会を宮崎県は目指します。 そのために、私たちは、何を考え、何を実行すべきでしょうか。 障がい者の生涯学習について、みんなで考える1日にしましょう。</p> <p>参加費 無料</p> <p>申込み方法 #ひなつどい 令和5年1月13日(金) 右のQRコードまたはURLから申込フォームにアクセスし、 必要事項を入力の上、送信してください。</p> <p>URL: https://shinsei.pref.miyazaki.lg.jp/kOK6mQoa</p> <p>新型コロナウイルス 感染症対策特設サイト</p> <p>宮崎県ホームページ</p> <p>メニュー</p> | <p>〔宮崎県公式 Twitter〕 フォロワー数 25,803</p> <p>宮崎県広報 ツイート 8,801</p> <p>ツイート ツイートと返信 メディア いいね</p> <p>宮崎県広報 @miyazakipref · 2日 誰もが共に学び、共に生きる社会を目指してみんなで考えるオンラインイベントを開催します。 多くのみなさまの参加をお待ちしています。 1月21日(土) 13:00～16:40 書家の金澤翔子氏によるオープニングメッセージ 取組事例の紹介など ※参加費無料</p> <p>詳しくはこちら sun.pref.miyazaki.lg.jp/new_view/855.h...</p> <p>令和4年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス 主催 宮崎県教育委員会、文部科学省</p> <p>ひなたのつどい</p> <p>つながる！ ～共に学び、共に生きる社会を目指して～</p> <p>令和5年1.21 土 13:00～16:40 オンライン</p> <p>金澤 翔子氏(作家) [宮崎県庁 2階201号室(2階)]</p> <p>誰もが共に学び、共に生きる社会を宮崎県は目指します。 そのために、私たちは、何を考え、何を実行すべきでしょうか。 障がい者の生涯学習について、みんなで考える1日にしましょう。</p> <p>参加費 無料</p> <p>申込み方法 #ひなつどい 令和5年1月13日(金) 右のQRコードまたはURLから申込フォームにアクセスし、 必要事項を入力の上、送信してください。</p> <p>URL: https://shinsei.pref.miyazaki.lg.jp/kOK6mQoa</p> | <p>〔宮崎県公式 Facebook〕 フォロワー数 1.3 万人</p> <p>すべて 投稿 人物 グループ イベント 写真</p> <p>宮崎県広報 2022年12月19日 · 🌐</p> <p>「ひなたのつどい」のご案内 内／... もっと見る</p> <p>令和4年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス 主催 宮崎県教育委員会、文部科学省</p> <p>ひなたのつどい</p> <p>つながる！ ～共に学び、共に生きる社会を目指して～</p> <p>令和5年1.21 土 13:00～16:40 オンライン</p> <p>金澤 翔子氏(作家) [宮崎県庁 2階201号室(2階)]</p> <p>誰もが共に学び、共に生きる社会を宮崎県は目指します。 そのために、私たちは、何を考え、何を実行すべきでしょうか。 障がい者の生涯学習について、みんなで考える1日にしましょう。</p> <p>参加費 無料</p> <p>申込み方法 #ひなつどい 令和5年1月13日(金) 右のQRコードまたはURLから申込フォームにアクセスし、 必要事項を入力の上、送信してください。</p> <p>あなたと他40人</p> <p>いいね! コメント シェア</p> |

それぞれの SNS の「友だち」の数やフォロワー数は上記のとおり、1 万 3,000 から 2 万 5,000 と一定数の登録がある（令和 5 年 2 月末現在）。チラシ作成枚数 1,400 枚から考慮すると、非常に有効であると考えられ、今後も広報の手段として活用していきたい。

